第２回総合教育会議次第

平成３０年３月２０日 午前１０時～

３１号会議室

１ 開　　会

２ あいさつ

３ 議　　題

１）飯山市保育園・学校課題検討委員会からの中間提言について

２）その他

４ その他

５ 閉　　会

写

平成30年1月22日

飯山市教育委員会　様

飯山市保育園・学校課題検討委員会
委員長　　服部秀人

飯山市保育園・学校課題検討員会設置要領第2条の規定に基づき、諮問された事項の内、保育園のあり方について、下記のとおり中間提言（答申）いたします。

中間提言（答申）事項

1　望ましい保育環境

飯山市の子どもたちにとっての望ましい保育環境は、下記のとおりとします。

(1) 3歳以上児は、集団としての活動の充実を図るため、一定規模のクラス人数が望ましい。

(2) 3歳未満児は、年齢による発達の差が特に大きく、発達に応じた保育を行うため、できる限り年齢別にクラスを分けることが望ましい。

2　具体的な方向性

望ましい保育環境を達成するため、下記のとおりとします。

(1) 喫緊の課題として、概ね3年以内に飯山地区の公立保育園は1園とし、施設は「しろやま保育園」とすることが望ましい。

(2) 飯山地区以外の保育園のあり方については、今後の小学校のあり方や、園児数の推移をみながら検討することが望ましい。

なお、保育園の統合にあたっては、別添の「飯山市保育園のあり方に関する中間意見書」を踏まえ、保護者や地域住民に対し十分説明を行い進めること。

飯山市保育園のあり方に関する中間意見書

平成３０年１月２２日

飯山市保育園・学校課題検討員会

１　飯山市保育園の現状

現在、飯山市の子どもの数は、少子化の進行により年々減少しており、保育園児数・保育園数も年々減少しており、平成２９年度には、しらかば保育園が休園となっています。（資料１、資料２）

一方、平成２７年度からの子ども・子育て新制度の施行に伴い１１時間保育の実施など新たな制度に基づく保育が開始され、飯山市においても平成２７年度より保育の拡大を行い、土曜１日保育、休日保育、公立保育園での満１歳からの受け入れなどを実施しています。

また、核家族化や共働き世帯の増加により保育園への入園率は増えており、特に３歳未満児の入園が年々増加しています。

２　飯山市保育園の課題

飯山市には、公立保育園９園（内、１園は休園中）、私立保育園１園があり、その他に私立幼稚園が１園ありますが、園児数の減少により公立保育園８園中４園では、３歳以上児の減少により混合保育を実施しています。また比較的人口の多い飯山地区においても、あきは保育園では平成２９年度は年長児が不在という状況となっています。

一方で、全国的な保育士不足の状況のなか、飯山市においても保育士は不足傾向で、特に３歳未満児の保育園入園が増加しているなかで、３歳未満児の年度途中の入園が厳しい状況となってきています。

また、公立保育園、私立保育園ともに施設の老朽化が進行しており、公立保育園においては、３歳未満児の増加に施設が対応できていないという課題があります。

３　飯山市の子どもたちにとっての望ましい保育環境

保育園は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場であり、子どもたちの望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うために保育を行わなければなりません。

また、保育園児は年齢による発達の差が大きく、それぞれの発達に応じた保育を行うことが重要です。発達段階に応じた、あるべき子どもの可能性を伸ばせるような保育を行うためには、同年齢児童による集団生活と異年齢児童との交流が経験できる一定程度の規模であることが望ましいと思われます。

特に３歳以上児については、集団としての活動の充実を図る必要があり、そのためには一定規模のクラス人数が望ましいと考えます。

また、３歳未満児については、年齢による発達の差が特に大きく、それぞれの発達に応じた保育を行うためには、できる限り年齢別にクラス分けをすることが望ましいと考えます。

公立保育園については老朽化が進んでおり、今後１０年以内に耐用年数を超える園が５園あります。また未満児の年齢別保育に対応できる施設は無く、３歳未満児の多い園では空いている保育室を暫定的に未満児室として使用している状況で、今後施設整備を進めていく必要があります。

保育園は、小学校への接続や通園距離、地域の子育て支援としての役割等も考慮しながら、保育環境の充実のため、今後の園児数の推移をみながら必要に応じて検討していくことが望ましいと考えます。

4　具体的な方向性（中間提言）

「3　飯山市の子どもたちにとっての望ましい保育環境」で述べたように、発達段階に応じた保育を行うためには、一定規模のクラス人数が望ましいわけですが、飯山地区には、現在公立保育園２園、私立保育園１園の他私立幼稚園１園があり（私立保育園には他の地区から通園している園児も多くいますが、）いずれの保育園においても園児数は年々減少しています。特に公立保育園においては園児数の減少が大きく、既に望ましい保育の実施が困難な状況となっていることから、早急に対応する必要があると思われます。

また飯山市全体として、保育園については地域コミュニティーを考え、今後の学校のあり方や園児数の推移をみながら、望ましい保育環境が保たれるよう検討していくことが必要と思われます。

以上のことから、本委員会では以下のとおり中間提言をいたします。

保育園のあり方についての中間提言

1　望ましい保育環境

飯山市の子どもたちにとっての望ましい保育環境は、下記のとおりとします。

(1) ３歳以上児は、集団としての活動の充実を図るため、一定規模のクラス人数が望ましい。

(2) ３歳未満児は、年齢による発達の差が特に大きく、発達に応じた保育を行うため、できる限り年齢別にクラスを分けることが望ましい。

2　具体的な方向性

望ましい保育環境を達成するため、下記のとおりとします。

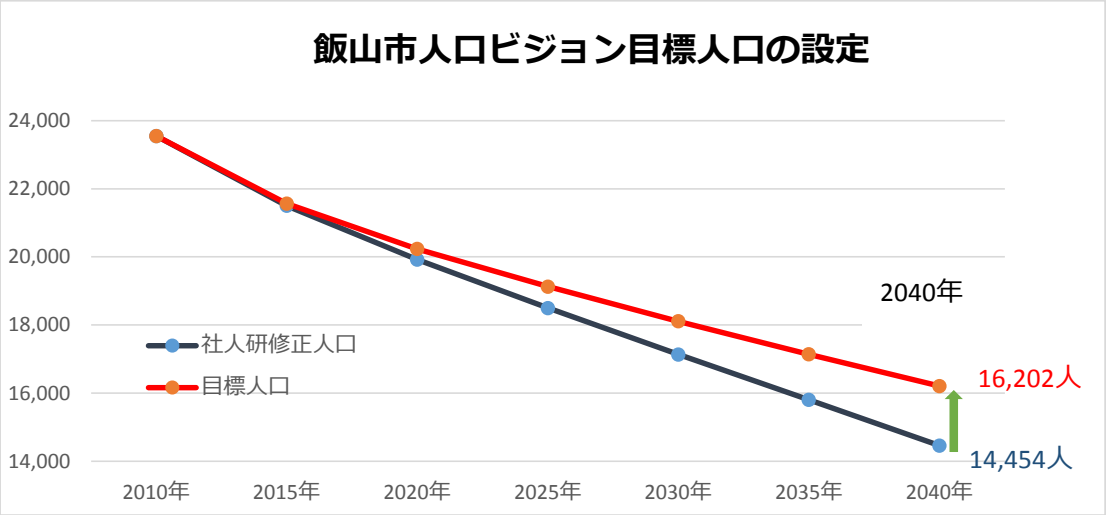
(1) 喫緊の課題として、概ね３年以内に飯山地区の公立保育園は１園とし、施設は「しろやま保育園」とすることが望ましい。

(2) 飯山地区以外の保育園のあり方については、今後の小学校のあり方や、園児数の推移をみながら検討することが望ましい。

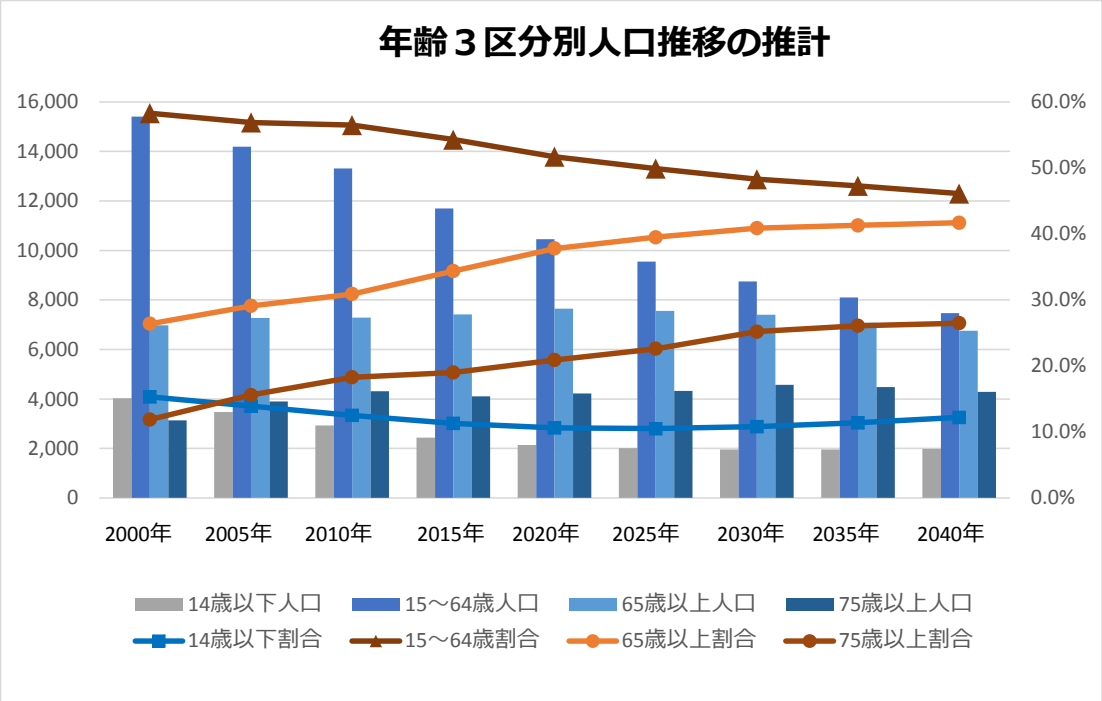
【補足事項】

・施設については統合後の園児数を考慮し、施設面積、敷地の広さなどから、しろやま保育園とした
・しろやま保育園１園化にあたっては、増加する未満児の保育環境の改善を図ること
・統合にあたっては、保護者に対し懇切丁寧な説明を行い理解を得るとともに、地域住民に対しても十分な説明を行うこと
・人口の減少、子どもの減少に歯止めをかけるための、子育て支援施策の充実を図ること

資料１

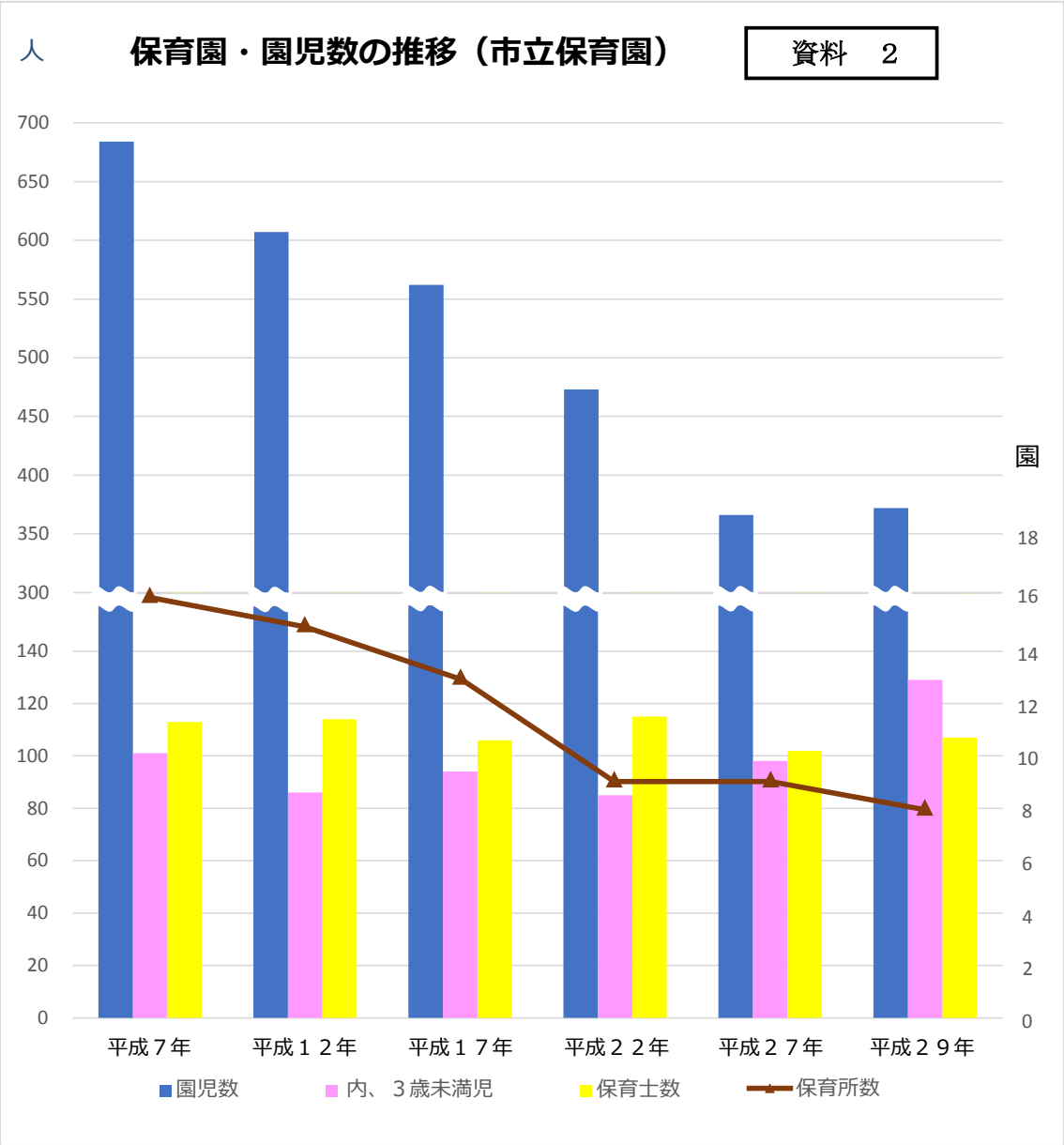


	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
社人研修正人口	23,545	21,500	19,919	18,495	17,133	15,802	14,454
目標人口	23,545	21,560	20,233	19,125	18,108	17,139	16,202
差	0	60	314	630	975	1,337	1,748



	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
14歳以下人口	4,031	3,473	2,934	2,438	2,139	2,016	1,957	1,955	1,980
14歳以下割合	15.3%	13.9%	12.5%	11.3%	10.6%	10.5%	10.8%	11.4%	12.2%
15～64歳人口	15,406	14,192	13,311	11,703	10,451	9,546	8,752	8,102	7,462
15～64歳割合	58.3%	56.9%	56.5%	54.3%	51.7%	49.9%	48.3%	47.3%	46.1%
65歳以上人口	6,983	7,273	7,282	7,420	7,644	7,563	7,400	7,082	6,760
65歳以上割合	26.4%	29.1%	30.9%	34.4%	37.8%	39.5%	40.9%	41.3%	41.7%
75歳以上人口	3,136	3,893	4,314	4,100	4,224	4,320	4,567	4,479	4,292
75歳以上割合	11.9%	15.6%	18.3%	19.0%	20.9%	22.6%	25.2%	26.1%	26.5%

出典：飯山市総合戦略（H27年10月策定）



	平成７年	平成１２年	平成１７年	平成２２年	平成２７年	平成２９年
保育所数	16	15	11	9	9	8
園児数	684	607	562	473	366	372
内、３歳未満児	101	86	94	85	98	129
保育士数	113	114	106	115	102	107

※数値は各年とも４月１日現在
※保育士数はパート職員も１人として計上
※平成29年度　しらかば保育園休園